

三菱商事
障がい者スポーツ応援プロジェクト

DREAM AS ONE.

～ともに一つになり、夢に向かって～

2016年11月11日

三菱商事株式会社

(株)エム・シー・コミュニケーションズ 出向)

平野 裕美

企業理念(三綱領)



第四代三菱社長
岩崎 小彌太

「三綱領」は、三菱四代社長・岩崎小彌太の訓諭をもとに、1934年に旧三菱商事の行動指針として制定されたもの。旧三菱商事は1947年に解散したが三菱商事においてもこの三綱領は企業理念となり、その精神は役職員の心の中に息づいている。

所期奉公

事業を通じ、物心共に豊かな社会の実現に努力すると同時に、かけがえのない地球環境の維持にも貢献する。

処事光明

公明正大で品格のある行動を旨とし、活動の公開性、透明性を堅持する。

立業貿易

全世界的、宇宙的視野に立脚した事業展開を図る。

(1934年制定)

三菱商事の社会貢献活動

<活動のはじまり>

1973年7月、当時社長の藤野は、企業の社会的責任について、「企業は社会の一員として社会貢献事業を積極的に行うべきで、そのための経費は企業が社会で存続するためのソーシャルコストとして、利益を得る前に負担しなければならない」と講演。

これをきっかけに同年10月、社会環境室を新設。人間にとって大切な“生命”、“環境”、“こころ”に関わる3つの分野において社会貢献事業をスタートした。



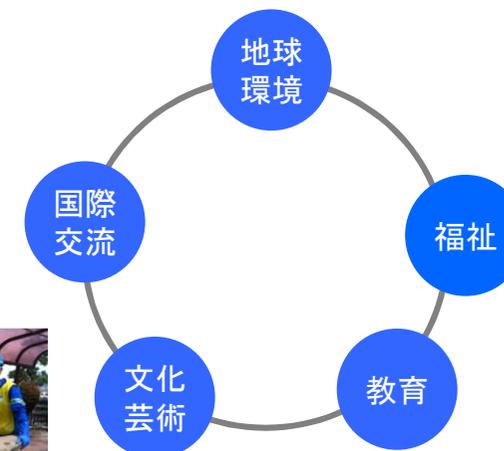
藤野社長(当時)

社会貢献活動に関する基本的な考え方

三菱商事の社会貢献活動は、「地球環境」「福祉」「教育」「文化・芸術」「国際交流」の分野を中心に、単にコストを負担するだけでなく、社員自らが自発的に活動に参加して汗を流し、継続して取り組むことを重視している。

社員が汗を流し、継続する社会貢献活動

全役職員が1年に1回はボランティア活動に参加することを目標に、社員の積極的なボランティア活動を支援するとともに、様々な取り組み(ボランティア休暇・トークン制度等)を実施している。



中村裕博士と「太陽の家」

【社会福祉法人 太陽の家】

設立: 1965年 創設者: 中村 裕(ゆたか)博士

- ・英国留学を経て、障がいのリハビリテーションとしてのスポーツの重要性を認識し、1964年の国際大会開催に尽力。
- ・1965年 障がい者に働く機会を提供し、自立生活ができるよう支援する為、「保護より機会を」「世に身心障害者はあっても仕事に障害はあり得ない」の理念の下、「太陽の家」を設立。



三菱商事太陽の設立

1983年太陽の家との共同出資で設立。従業員88名(障がい者53名、健常者35名)のシステム開発会社



大分国際車いすマラソン大会

1981年の「国際障害者年」を記念して開催され、1991年から協賛。2016年で36回目となる。



【DREAM AS ONE.の基本理念】

2014年、新生三菱商事発足60年を機にスタート

1

障がい者スポーツの裾野を広げる

2

障がい者スポーツに対する理解度・認知度を高める

障がい児向け
スポーツ教室

セミナー
(ボランティア養成講座)

DREAM AS ONE.

スポーツ
イベント

競技大会

【DREAM AS ONE.サポーター】



アンバサダー
高橋 勇市
(三菱商事)



今井 友明(三菱商事)



高橋 尚子さん



根木 慎志さん



高田 朋枝さん



池崎 大輔(三菱商事)



廣道 純さん



佐藤 隆信さん



サラ・オレインさん



障がい児向けスポーツ教室

DREAMクラス(毎月)

東京YMCAと共催で月1回開催。
バスケットボールやサッカーボール、
水泳などのスポーツをする機会を提供

(保護者より)
親子で一緒に体を動かせるのが良いです。
水にも慣れて、泳ぎも徐々に上達しています。



DREAMキャンプ(年1回)

東京YMCA他の協力のもと開催(高尾わくわくビレッジ)。
車いすバスケ、ボッチャ、車いすテニス、
車いす陸上(レーザー)、チェアスキーの体験や
野外でのおやつ作りなどの共同作業、
保護者向けのトークイベントを開催。

(保護者より)
色々な競技を楽しみながら経験することができた。
トップアスリートの話も有意義だった。



ボランティア養成講座、各種セミナー

ボランティア養成講座

一般参加有

東京都障害者スポーツ協会や日本ケアフィット
共育機構のご協力のもと、障がい者スポーツの
ボランティアの基礎知識を座学で学び、
各種競技大会でボランティアとして実践。
これまでに卓球、ゴールボール、陸上競技大会等
に参加。



11/30(水)開催
別所キミエさん
ゲスト参加!



視覚障がい者理解の為のセミナー

一般参加有

日本盲人マラソン協会(JBMA)の協力で
視覚障がい者のサポート方法を学ぶ。

(参加者より)

今までどのように声を掛けたら良いか分かりません
でした。学んだ知識を今後にかかしていきたいです。



ユニバーサルマナー検定、セミナー

一般参加有

高齢者や障がい者への対応方法は、特別なもの
ではなく、ひとつの「マナー」と捉え、障がいの
ある講師自身の経験を交えながら、適切なサポ
ートやコミュニケーション方法を実践的に学ぶ。



(株)ミライロ主催
ユニバーサルマナー検定

スポーツイベント

障がい者スポーツ体験会

夏休み子ども達を対象として、車いすバスケットボールやウィルチェアーラグビー、ゴールボール、盲人マラソンの体験会を実施。現役日本代表選手などが直接指導。

ウィルチェアーラグビーという競技は知らなかったが、タックルの衝撃を初めて体験して驚いた。選手が楽しく教えてくれて、これから応援していきたいと思った。

ランニングイベント等の開催

2014年からスマイルアフリカプロジェクトと協同で有明でのマラソンイベントを開催。障がいの有無に関わらず、車いすランナーや視覚障がいがある方も一緒に走り、ランニングをしながら障がいへの理解を深める。

丸の内でのイベント開催(スポーツのちから@丸の内)

プロジェクト開始1年を機に、さらに障がい者スポーツに触れ、応援者を増やす事を目的としてイベントを開催。ボッチャ、チェアスキー等の体験やアスリートによるラジオの公開収録などを行い、のべ500名以上が参加。



競技大会

大分国際車いすマラソン大会

1991年より協賛すると共に、事前に車いすの講習を受けた社員がレース運営のボランティアとして毎年50名近く参加。

(三菱商事太陽・佐藤 隆信選手が参加)

ウィルチェアーラグビー

「三菱商事 2015 IWRF アジア・

オセアニア チャンピオンシップ」に冠協賛

(ボランティアや応援に社員とその家族が参加)

国際盲人マラソンかすみがうら大会

2014年より協賛すると共に、社員が盲人ランナーの伴走や給水ポイントのボランティアに参加。

(盲人ランナーの方より (社員が伴走を担当))
フルマラソンを走るのは初めてで不安もあったが、
「大丈夫、楽しくゴールしましょう！」
という言葉に、安心して走る事ができました。



今後の課題

社内) パラアスリートの雇用・活用

⇒ 現在わが社には3名が在籍。
社員のメダル獲得は社内で好影響。
どこまで増やすか？

一般) 2020を見据え、国際大会を盛り上げるには？

⇒ リオでは各国が一丸となり応援。日本は、、
2020ではグッズなどを揃え、
誰もが応援できる体制を
整えるべき。

